

【新築住宅用】

団体検査

現場検査マニュアル

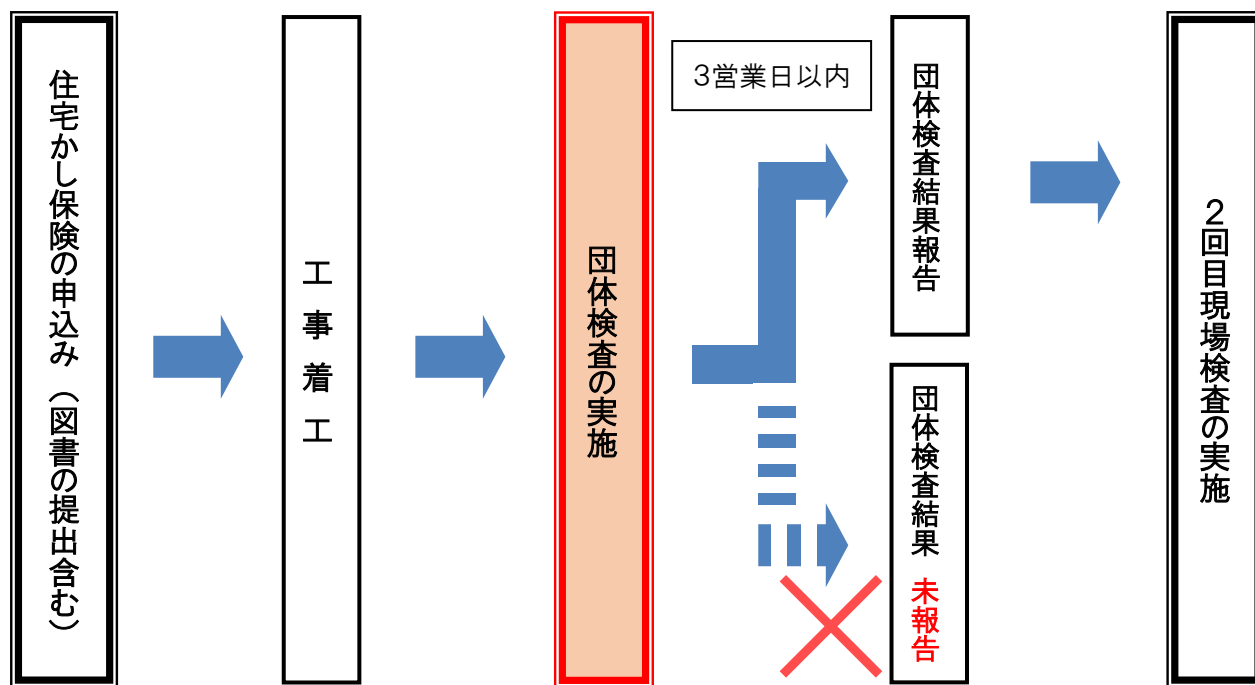


株式会社 ハウスジーマン

このマニュアルは、ハウスジーマンに登録された認定団体の団体検査員が、所属する団体の現場検査マニュアルに沿って行う基礎配筋工事完了時の団体検査方法を定めたものです。

1. 検査の流れ

住宅かし保険の申込から2回目検査までの流れは以下のとおりです。必ず提出期限内に当社へ検査結果を報告してください。



団体検査実施時の注意

1. 団体検査員は、建築士、建築基準適合性判定資格者または施工管理技士(二級施工管理技士(仕上げ)を除く)に限ります。ただし、二級もしくは二級建築基準適合判定資格者または木造建築士である団体検査員が実施できるのは、それぞれの資格において設計または工事監理を行うことができる住宅に対する団体検査に限ります。
2. 団体検査を行う前に必ず住宅かし保険の申込みが行われていることを確認してください。
3. 団体検査は、必ず団体検査員本人が実施しなければなりません。現場に代理の者を出向させたり、現場に行かずに書類で検査を済ませたりすることは認められていません。
4. 団体検査員は、団体検査員の急病により代わりに行う場合や、離島において代替する団体検査員がいない場合等を除き、自らが設計または施工時管理する物件の団体検査には関与できません。
5. 団体検査のハウスジーマンへの結果報告は**団体検査実施日の翌日から3営業日以内**に行ってください。

2. 団体検査の時期

- 基礎配筋工事完了時、かつ基礎コンクリートの打設前

3. 検査方法

団体検査は、後掲の検査方法に従い、歩行その他の通常的手段により移動できる位置において、各々の部位等を「目視」、「計測」等により確認をします。目視および計測ができない場合は、ヒアリングにより確認します。

【目視】……建物全体および検査箇所を目視により確認します。

【計測】……計測が必要な検査項目は1項目につき2箇所以上を抜き取り、計測機器により確認します。

【ヒアリング】…目視および計測が不可能な場合は口頭により確認します。(ヒアリングが可のものに限る)

施工状況を設計図書と照合し、設計図書と施工が異なる場合は設計図書または施工の是正をしていただきます。

4. 写真の撮影方法

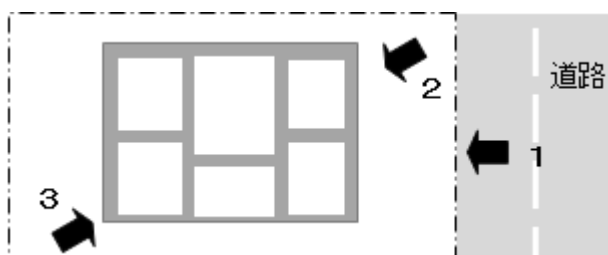
写真撮影の目的は、検査時の現場状況を把握するためであり、現場検査の説明の補足資料となるものです。

①撮影箇所、枚数

No.	備考	
1	全景	背景など現場が特定できるものを写し込む
2	基礎の配筋状況①	建物の角からその対角に向けて配筋全体が写り込むように撮影(図1参照)
3	基礎の配筋状況②	No. 2と反対方向から配筋全体が写り込むように撮影

※敷地状況等により配筋全体が撮影できない場合は最大限撮影可能範囲とする。

図1:基礎配筋状況撮影方法例



【1】のイメージ



【2】のイメージ



【3】のイメージ



②撮影方法

- 背景など現場が特定できるものを写し込むこととする。
- 住宅名等を記入したバインダーの使用は任意とする。

③デジタルカメラの設定等

- 画素数の設定
画素数は100万～600万画素(1メガピクセル～6メガピクセル)程度とする。

【注意】

写真の撮影漏れが無いこと、カメラにデータがあることを現場で必ず確認してください。

5. 団体検査チェックシート

団体検査チェックシートは団体検査員が現場検査の内容を記録するために用いるものです。

- 物件情報

「住宅(物件)ID」「住宅(物件)名」「届出事業者名」「検査員氏名」「検査実施日」を記入する。

- 判定

検査項目の確認結果は、判定欄に「○」「×」のいずれかを記入する。

○:指摘無し・該当無し、×:指摘有り

- 総合判定

各判定の結果は、総合判定欄に「○」「×」のいずれかを記入する。

○:指摘無し、×:指摘有り

6. 報告方法

団体検査の報告は、撮影した写真と一緒に、現場検査実施日の翌日から3営業日以内に当社へ報告します。

システム操作マニュアルは、事業者専用ページ > WEBシステム操作マニュアルから[操作ガイド]ページへ進んでいただくことでダウンロードいただけます。



木造

現場検査項目	確認項目	検査方法				
基礎	形式および寸法	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	基礎の形式(布基礎・ベタ基礎・その他基礎)について、全体を目視により確認する。					
	基礎の各寸法について全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 ● 布基礎 ①ベース厚 (≧150mm) ②ベース幅 (≧構造種別に応じた寸法) ③立上り幅 (≧120mm) ④GLからの立上り高さ (≧300mm(S基準の場合は土台下端まで400mm)) ● ベタ基礎 ①スラブ(耐圧盤)厚 (≧120mm) ②立上り幅 (≧120mm) ③GLからの立上り高さ (≧300mm(S基準の場合は土台下端まで400mm)) 型枠が未施工により計測ができない場合は、ヒアリングにより確認する。					

現場検査項目	確認項目	検査方法				
配筋	スラブ(耐圧盤) ベース部分(主筋・配力筋)	目視	計測	—	設計図書	—
	ベタ基礎のスラブ(耐圧盤)、または布基礎のベース部分の主筋および配力筋の下記項目について全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。					
	①かぶり厚 : 土に接する部分は60mm以上であることを確認する。 ②径 : 主筋は12mm以上、配力筋は9mm以上を目安とし設計図書と照合する。 ③間隔 : 300mm以下を目安とし設計図書と照合する。 ④定着長さ : 定着長さが確保されていることを確認する。 ⑤重ね継手の長さ : 継手長さが確保されていることを確認する。					
	立上り部分 (主筋・腹筋・あばら筋)	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	立上り部分の主筋、腹筋およびあばら筋の下記項目について全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 ①かぶり厚 : 40mm以上であることを確認する。 ②径 : 主筋は12mm以上、主筋以外は9mm以上を目安とし設計図書と照合する。 ③本数 : 300mm以下を目安とし設計図書と照合する。 ④間隔 : 設計図書と照合する。 ⑤定着長さ : 定着長さが確保されていることを確認する。 ⑥重ね継手の長さ : 継手長さが確保されていることを確認する。 出隅・入隅部分に関しても確認する 上記の項目以外に主筋と縦筋が緊結されていることを確認する。 型枠が未施工により計測が不可能な場合は、ヒアリングにより確認する。					
	立上り部分の主筋が重ね継手の場合は、継手長さが確保されていることを、全体を目視のうえ計測により確認する。					

木造

現場検査項目	確認項目	検査方法				
補強筋	床下換気口	目視	計測	—	設計図書	—
	床下換気口が設置されている場合は、換気口の廻りに縦筋、横筋、斜め筋等による補強が行われていることを、全体を目視により確認する。 ただし、床下換気口がない場合（ねこ土台・基礎断熱等）は対象外。					
	補強筋の定着長さが確保されていることを、全体を目視のうえ計測により確認する。 また、鉄筋の種類を目視により確認する。ただし、床下換気口がない場合は対象外。					
	人通口	目視	計測	—	設計図書	—
	人通口が設置されている場合は、人通口の廻りに縦筋、横筋、斜め筋等の補強が行われていることを、全体を目視により確認する。					
	補強筋の定着長さが確保されていることを、全体を目視のうえ計測により確認する。 また、鉄筋の種類を目視により確認する。					
	スリーブ開口	目視	計測	—	設計図書	—
	スリーブが設置されている、または設計図書に記載がある場合は、スリーブ開口の廻りに縦筋、横筋、斜筋、既製品等の補強が行われていることを、全体を目視により確認する。					
	補強筋の定着長さの確保されていることを、全体を目視のうえ計測により確認する。 また、鉄筋の種類を、目視により確認する。 設計図書の記載に関わらず、梁成の1/3以上の断面欠損、または鉄筋を切断している箇所がある場合は、適切な補強が行われていることを、全体を目視により確認する。					

RC造・鉄骨造

※鉄骨造のみアンカーボルト・柱脚部の検査項目あり

現場検査項目	確認項目	検査方法				
鉄筋の品質	JIS 規格品 劣化状況	目視	—	—	設計図書	納入書等
	使用している鉄筋の製造工場がJIS表示認定工場であることを、納入書やミルシート等の書類により確認する。					
	鉄筋に粉状の赤錆がないことを、全体を目視により確認する。					
	圧接継手の施工状況 外観試験・超音波深傷試験の実施状況	目視	計測	—	設計図書	試験結果等
	ガス圧接工法による圧接継手がある場合は、圧接部のふくらみ寸法・形状等について、全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 また、圧接部の品質検査が実施されていることを外観検査・超音波深傷試験等の書類により確認する。					

現場検査項目	確認項目	検査方法				
基礎	形式・寸法・配置	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	基礎の形式(ベタ基礎・フーチング基礎・その他基礎)、寸法、配置について、全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により設計図書との整合性を確認する。 型枠が未施工により計測が不可能な場合は、ヒアリングにより確認する。					

RC造・鉄骨造

現場検査項目	確認項目	検査方法				
配筋	基礎・基礎梁(主筋)	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	主筋の下記項目について、全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 ①かぶり厚 : 設計図書と照合する。 ②径 : 設計図書と照合する。 ③本数 : 設計図書と照合する。 ④鉄筋相互間隔 : 主筋等の径の1.5倍以上を目安とし設計図書と照合する。 ⑤継手の種類 : 設計図書と照合する。 ⑥継手の位置 : 隣接する鉄筋の継手位置が適切であることを確認する。 ⑦定着長さ : 柱への定着長さが適切に確保されていることを確認する。 型枠が未施工により計測が不可能な場合は、ヒアリングにより確認する。					
	基礎梁(あばら筋)	目視	計測	—	設計図書	—
	基礎梁のあばら筋の下記項目について、全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 ①径 : 設計図書と照合する。 ②間隔 : 設計図書と照合する。 ③フックの位置・長さ・角度 : 設計図書と照合する。					
	スラブ(耐圧盤) 主筋・配力筋	目視	計測	—	設計図書	—
	スラブ(耐圧盤)の主筋、配力筋の下記項目について、全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 ①スラブ厚 : 設計図書と照合する。 ②かぶり厚 : 設計図書と照合する。スペーサー等の設置状態についても確認する。 ③径 : 設計図書と照合する。 ④本数 : 設計図書と照合する。 ⑤間隔 : 設計図書と照合する。 ⑥継手の種類 : 設計図書と照合する。 ⑦継手の位置 : 隣接する鉄筋の継手位置が適切であることを確認する。 ⑧定着長さ : 基礎等への定着長さが適切に確保されていることを確認する。					
	壁(上階配筋) 縦筋・横筋(鉄骨造は除く)	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	壁(上階配筋)縦筋、横筋の下記項目について、全体を目視のうえ計測(各部位2箇所以上)により確認する。 ①壁厚 : 設計図書と照合する。 ②かぶり厚 : 設計図書と照合する。スペーサー等の設置状態についても確認する。 ③径 : 設計図書と照合する。 ④本数 : 設計図書と照合する。 ⑤間隔 : 設計図書と照合する。 ⑥継手の種類 : 設計図書と照合する。 ⑦継手の位置 : 隣接する鉄筋の継手位置が適切であることを確認する。 ⑧定着長さ : 隣接する鉄筋の継手位置が適切であることを確認する。 型枠が未施工により計測が不可能な場合は、ヒアリングにより確認する。					

現場検査項目	確認項目	検査方法				
補強筋	スリーブ開口	目視	計測	—	設計図書	—
	スリーブが設置されている場合または設計図書に記載がある場合は、スリーブ開口の廻りに縦筋、横筋、斜筋、既製品等の補強が行われていることを、全体を目視により確認する。					
	補強筋の定着長さが確保されていることを全体を目視のうえ計測により確認する。 また、鉄筋の種類を目視により確認する。					

鉄骨造検査項目

現場検査項目	確認項目	検査方法				
アンカーボルト	種類・径・長さ・位置	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	アンカーボルトの種類、径、長さ、位置が設計図書通りに施工されていることを、全体を目視により確認する。目視および計測ができない場合は、ヒアリングにより確認する。					

現場検査項目	確認項目	検査方法				
柱脚部	露出形式	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	アンカーボルトが柱の中心に対して均等に配置されていることを、全体を目視により確認する。					
	アンカーボルトの基礎に対する定着長さがアンカーボルトの径の20倍以上であり、その先端をかぎ状に折れ曲げる、または定着金物を設けていることを、全体を目視のうえ計測により確認する。					
	未施工により目視および計測ができない場合は、ヒアリングにより確認する。					
	根巻き形式	目視	計測	(ヒアリング)	設計図書	—
	根巻き部分の立上り主筋の基礎に対する定着長さが確保されていることを、全体を目視のうえ計測により確認する。 未施工により目視および計測ができない場合は、ヒアリングにより確認する。					
	埋込み形式	—	—	—	—	—
	埋込み形式の場合は、2回目でハウスジーマンが検査を行うため団体検査は不要。					